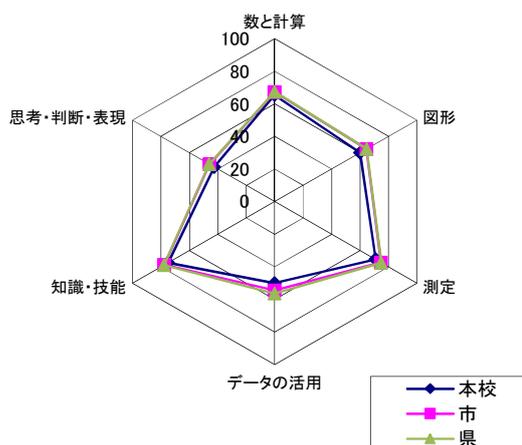


宇都宮市立錦小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	65.4	67.3	67.4
	図形	60.0	64.5	64.7
	測定	70.9	74.7	74.9
	データの活用	50.0	54.4	56.4
観点	知識・技能	75.0	77.6	77.8
	思考・判断・表現	42.6	45.8	46.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、県や市の平均正答率よりもやや低い。 ○式の意味を正しくとらえ、言葉で説明する問題の正答率は23.3%で、県の平均正答率を9.7ポイント上回っている。 ●大きな数の表し方について正しいものを選ぶ問題の正答率は76.7%で、県の平均正答率を7.5ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな数の表し方を朝の学習の時間やAIDリルを活用して繰り返し復習することで、定着を図る。 数の概念について豊かな感覚を養うため、学習指導や教材の工夫・改善を図る。さらに、授業では自分の考えを深める十分な時間の確保と友達の考えに触れる場を設け、思考力を育てていく。
図形	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、県や市の平均正答率よりもやや低い。 ○球の半径について正しいものを選ぶ問題の正答率は69.8%で、県の平均正答率を5.1ポイント上回っている。 ●円の中心とコンパスの使い方について、正しいものを選ぶ問題の正答率は39.5%で、県の平均正答率を20.5ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 円の中心とコンパスの使い方を復習し、コンパスの使い方の定着を図る。 円の定義についての確認を繰り返し行うとともに、練習問題に取り組ませ、理解の定着を図る。 道具の操作性を高めるため作図の機会を増やし慣れさせ、引き続き指導することで、さらなる定着を図る。
測定	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、県や市の平均正答率よりもやや低い。 ●はかりの目盛りを読みとり、重さを答える問題の正答率は39.5%で、県の平均正答率を11.6ポイント下回っている。 ●身近な物の重さの単位について、正しくないものを選ぶ問題の正答率は76.7%で、県の平均正答率を3.5ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 物の重さや長さを計測する活動を設定したり、単位の意味について復習したりして、既習の学習内容が定着するよう指導していく。
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は、県や市の平均正答率よりも低い。 ●2つの棒グラフで1目盛りの数が異なることに注意しながら、棒グラフを読み取り、正しいものを選ぶ問題の正答率は14.0パーセントで、県の平均正答率を9.6ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> グラフの学習では、グラフの作図だけでなく、1目盛りが表す数の大きさに注意しながら棒グラフを読みとることもできるよう、繰り返し指導する。 他教科との関連を図り、資料として棒グラフが提示される場合には、目盛りを正しく読んだりグラフから読み取れることを発表したりする場を設ける。また、様々なデータに触れさせることで繰り返し復習できるようにする。